くまがや

農委だより

No.85
令和8年
7月1日発行

こころ、晴れる、モノ語り

熊谷ブランド「晴れまち」認定品



初恋の味キウイジャム
幸せのブルーベリーチーズスプレッド

KUMAGAYA BRAND
晴れまち



おおものとうもろこし

熊谷ブランド「晴れまち」

熊谷ブランド「晴れまち」は、公募により認定する【認定品】と、市内の生産を守るため市が指定する【指定品】からなる熊谷市公認のブランド品です。

【指定品】は以下のとおりです。

晴れまち FARM

米、麦、ネギ、
ニンジン、ヤマトイモ、
ブロッコリー、いちご、
ブルーベリー、
ぶどう、栗

令和8年度から、次のものが【指定品】となりました。

晴れまち FARM	晴れまち GIFT	晴れまち PRODUCT
キュウリ	雪くま 五家宝 妻沼の いなり寿司	熊谷染

令和7年度 認定品決定！

令和7年度から開始した「熊谷ブランド」認定制度につきまして、令和7年11月26日から令和8年1月30日までの募集期間中、多数のご応募をいただきました。厳正な審査の結果、次のとおり認定品を選定しましたのでお知らせします。

株式会社栗原弁天堂 GemFarm	フルーツトマトくまとま
のうカフェ株式会社	ハレノクニからのおくりもの野菜だれ妻沼ねぎ味
さかた園芸	【シリーズ認定】 さかたさんちのとまとちゃん さかたさんちのとまとジャム さかたさんちのとまとジュース
ワイルドナイツカフェ	ワイルドナイツカステラ
遠藤ファーム株式会社	【シリーズ認定】 Maa Honey
西田農園	特別栽培米コシヒカリ（栽培期間中農薬不使用）
有限会社三河屋	いちごもち
Te'cachette	熊谷小麦＆豆腐マフィン
株式会社花堤	こだわりきな粉の富来五家宝
株式会社リード	【シリーズ認定】 サイクルラック
ファームFUMI	【シリーズ認定】 初恋の味キウイジャム 幸せのブルーベリーチーズスプレッド
グラノーラ工房中小路	【シリーズ認定】 中小路さんちのグラノーラ
株式会社熊谷青果市場	ナイストライかぼちゃ
浅見農園	おおものとうもろこし
株式会社沢田本店	かぼちゃすうぷの素

※シリーズ認定品とは、製法やストーリーに強い一貫性があり、群として認定することで「熊谷らしさ」の訴求力が高いもの

詳しくは、熊谷ブランド「晴れまち」公式ホームページをご覧ください。

認定品のうち、2つを紹介します。

「初恋の味キウイジャム」、「幸せのブルーベリーチーズスプレッド」

ファームFUMI　髙橋　文子さん

髙橋文子さんは、定年退職後、夫婦で義父の農園を受け継ぎ、野菜や果物などの作物を育てています。

８年程前に受講した農業講座をきっかけに、その後も研修を重ね、新しい知識に触れる楽しさから農業への思いがより深まったといいます。育てた作物をより多くの人に味わってもらいたいとの思いから、県内の事業者へ委託し、ジャム作りにも取り組むようになりました。

栽培方法や土づくりに強いこだわりを持っています。栽培期間中は農薬・化学肥料(窒素成分)を使わない栽培をしており、「埼玉県認証特別栽培農産物」(※注)にも取り組んでいます。甘酸っぱく、鮮やかな緑色の「キウイジャム」と、クリームチーズを合わせた風味まろやかな「ブルーベリーチーズスプレッド」は、ファームFUMIほか、八木橋百貨店(Plugs Market)にて購入できます。

また、髙橋さんの農園ではブルーベリーの収穫体験が8月お盆頃まで楽しめます。インターネットで「ファームFUMI」と検索し、事前にご連絡のうえお越しください。

髙橋さんは、「農園を訪れた人が思い出となる一日を過ごせるように願って、日々努力している」と話してくださいました。

※注　農林水産省の「特別栽培農産物に係る表示ガイドライン」に基づき、栽培期間中、節減対象農薬及び化学肥料(窒素成分)の双方を慣行の5割以下に減らして栽培し、埼玉県が独自に認証した農産物



おおものとうもろこし

浅見農園　浅見　佳春さん

今年４月、代々続く農家を父の春男さんから引き継いだ浅見佳春さんは、両親と営む農園で、ねぎ、ブロッコリー、キャベツを中心に多彩な作物を育てています。

夏の収入を支えるおおものとうもろこしの栽培は7年目を迎え、播種の時期をずらして、長く収穫出来るように工夫し、丁寧に育てています。この品種の特徴は、実が500グラムほどに成長し、甘さは「高級メロン」に匹敵するほどと言います。

JAくまがやふれあいセンター妻沼店で、７月下旬頃まで販売する朝採りの2本入りは、県外から訪れて購入する方もいる人気ぶりです。

また、天候の良い土・日には、同店で焼きとうもろこしの販売も行い、多くの来店者に喜ばれています。食べ方も豊富で、皮付きのまま電子レンジで3分加熱したり、一口大にカットして素揚げにしたり、炊き込みご飯や生で食べることもできるなど、さまざまな味わいが楽しめます。

自慢のとうもろこしを地域に根付かせたいとの思いで栽培に励みながら、新たに中玉フルーツトマトの試験栽培やにんにくの栽培にも挑戦しています。



農業委員会総会における審議件数

農業委員会総会は、毎月１回開催され、農地の貸借や農地転用の可否を審議しています。
下表のとおり、年間の取扱件数とその推移をお知らせします。

		令和５年度			令和６年度			令和７年度		
		件数	筆数	面積　㎡	件数	筆数	面積　㎡	件数	筆数	面積　㎡
3条 農地の所有権移転	市街化・調整	142	274	246,598	139	303	225,740	119	396	342,695
4条 自己所有農地の転用	市街化	30	46	14,812	35	65	19,932	38	65	14,813
	調整	24	28	5,836	18	9	7,290	15	18	4,105
5条 農地の貸借権の設定または所有権移転を伴う転用	市街化	178	318	87,401	138	223	72,166	177	275	72,091
	調整	187	475	167,238	170	319	142,244	148	317	160,145
4・5条　合　計		419	867	275,287	361	616	241,632	378	675	251,154
農用地利用集積計画（貸借）			3,372	4,646,656		2,738	3,322,843			
農地中間管理事業			651	1,072,247		1,591	2,217,742		2,805	3,411,062

◆農業委員会事務局　TEL 048-588-9985

ジャンボタニシから稲を守りましょう

全国でジャンボタニシ（正式和名：スクミリンゴガイ）の発生が増えています。地域ぐるみで防除に取り組み、食害を防止しましょう。



ジャンボタニシとは？

淡水巻貝の一種で、水稲等を食害します。45年ほど前に食用目的で日本に輸入されましたが、消費者の嗜好に合わず、養殖業者の廃業等によって農業用水路や水田で野生化したといわれています。

市内では旧妻沼地区や奈良・中条地区を中心に発生及び被害の報告が寄せられています。

【特徴】●殻高は2～7センチメートル程度　●螺旋上部の長さが短い
●長い触角を持つ　●卵塊は鮮やかなピンク色

食害が生じやすい場所は？

ジャンボタニシは、田植え後約３週間までの柔らかく小さな苗を食害します。

また、深水となった部分では活動が活発になるため、被害が生じやすくなります。

どうやって防除すればいいの？（春夏編）

①水口網の設置

田植え前の入水時から田植え後３週間まで、取水口・排水口に９ミリメートル目合い程度のネットや金網を設置しましょう。

②田植え後の浅水管理

田植え後約３週間は水深を４センチメートル以下に維持しましょう。

③効果的な薬剤散布

ジャンボタニシの発生状況や水管理の状態に応じて、効果的な薬剤散布を行いましょう。

薬剤購入補助

【助成対象】水稲の作付けをしている市内の農業者
【補 助 率】３／１０以内
【対象薬剤】
スクミンベイト３、スクミノン、パダン粒剤４、スクミハンターなどの薬剤
【薬剤の購入先】JAくまがや　など
【必要書類等】
①購入した商品名や金額、数量がわかるもの（納品書等）
②散布場所がわかるもの（営農計画書等）
③JAくまがやの通帳（写し）　④印鑑
【申請期間】令和９年２月１日まで
※令和８年２月１日～令和９年１月３１日までに購入した薬剤が対象となります。

【受付場所及び問合わせ】
◆熊谷市病害虫防除協議会（事務局：農業政策課）
TEL 048-588-9987

市民の皆様へのお願い　ジャンボタニシを川や田んぼ等に放流しないようご協力をお願いします。また、貝には寄生虫がついている可能性があり、卵には毒性がありますので、触らないようにしましょう。

令和８年度　熊谷市農業施策に関する意見書に対する回答がありました

農業委員会が昨年10月に取りまとめた農業施策に関する意見書に対する市からの回答が、令和8年3月25日に示されました。主な意見とそれに対する回答についてご紹介します。

遊休農地解消のため、地域で農地保全、耕作をするような総合的な支援をお願いしたい。

回答　多面的機能支払交付金の交付を受けて活動する組織が市内に44団体あるので、遊休農地解消についても活動計画の一つとして検討いただくよう働きかけを行っていきます。

農業担い手の支援について、農業用機械導入に効果的な「元気な農業支援事業」などの施策を継続して実施してもらいたい。

回答　「元気な農業支援事業」については令和８年度も引き続き実施することとし、担い手の支援を積極的に行ってまいります。また、「スマート農業推進支援事業」についても引き続き実施をしてまいります。

農地の有効活用について、大規模な農業生産法人の誘致の働きかけを積極的に行っていただきたい。

回答　埼玉県で実施している農業法人が遊休農地を整備した際に利用できる遊休農地整備事業などを活用しながら、農業生産法人の誘致について積極的に検討してまいります。

農業委員会はこれからも熊谷市に対して必要な意見を提言するとともに、積極的に協力しながら本市農業が発展していくよう力を尽くしてまいります。

農地パトロールを実施します

例年どおり８月から９月に農業委員と農地利用最適化推進委員による農地パトロールを実施します。

調査にあたり、農地内に立ち入ることもありますが、ご理解ご協力をお願いします。

毎年、雑草や樹木の繁茂による苦情相談は200件以上にのぼります。適正な管理を怠ると様々な問題が発生します。

特に夏は雑草が伸びるのもはやいため、作付けしていない農地や管理を任されている農地等の草刈りをお願いします。作業を行う際には熱中症等にくれぐれもご注意ください。



◆農業委員会事務局　TEL 048-501-5501

イネカメムシ防除　薬剤の助成について

イネの穂を加害するカメムシ類のうち、「イネカメムシ」の発生は市内での発生地域も拡大傾向にあります。イネカメムシの加害により不稔や斑点米が生じ、多発した場合には収量・品質に大きく影響するため、イネカメムシの個人防除に対する薬剤の助成を本年度も行います。

【助成対象】水稲の作付けをしている市内の農業者
【補 助 率】３／10以内
【対象薬剤】スタークル剤、キラップ剤、トレボン乳剤、ダントツ粒剤など
【薬剤の購入先】JAくまがや　など
【必要書類等】
①購入した商品名や金額、数量がわかるもの（納品書等）
②散布場所がわかるもの（営農計画書等）　③JAくまがやの通帳（写し）　④印鑑
【申請期間】令和９年２月１日まで　※令和８年２月１日～令和９年１月３１日までに購入した薬剤が対象となります。
【受付場所及び問合わせ】　◆熊谷市病害虫防除協議会（事務局：農業政策課）　TEL 048-588-9987



写真：埼玉県病害虫防除所

令和９年度埼玉県農業大学校学生募集のお知らせ

埼玉県農業大学校で実践力を身に付け、農業への道を目指しませんか。

同校には２年課程と１年課程があり、実習中心のカリキュラムにより、目指す農業経営に応じた技術を学ぶことができます。在学中に大型特殊自動車免許（農耕車限定）やフォークリフトなどの資格を取得することが可能です。

募集人員、入試日程は下表のとおりです。入学希望者を対象に見学会や個別相談会を開催しています。詳しくは同校または農林振興センターまでお問合わせください。

●募集人員

学科（専攻）	人員
野菜(施設栽培、露地栽培)	３０
水田複合(水田複合)	５
花植木(花き、植木造園)	１５
酪農(酪農)	５
短期農業(短期野菜、有機農業)	３５

※短期農業学科は１年課程、他は２年課程

●入試日程

入試区分		出願期間	試験日
推薦入試		R8.9.29（火）～10.8（木）	R8.10.27（火）
一般入試	A日程	R8.10.30（金）～11.9（月）	R8.11.26（木）
	B日程	R8.12.9（水）～12.18（金）	R9.1.19（火）

【問合わせ】埼玉県農業大学校　TEL 048-501-6845
大里農林振興センター農業支援部　TEL 048-526-2210

◀ 農業大学校ＨＰ

カメムシ類対策のお知らせ



近年カメムシ類による水稲の被害が増加しています。カメムシ類の水田への飛び込みを抑止するため、埼玉県では稲穂が出る時期（７月～９月頃）に河川の草刈りを避ける取組をしています。雑草が繁茂する可能性がありますが、ご理解とご協力をお願いします。

◆大里農林振興センター管理部地域支援担当　TEL 048-523-2812

道路に泥を落とさないように注意しましょう

農繁期は農作業のために農業用車両で道路を通行する機会が多くなります。

トラクター、コンバイン等を使用した農作業の後に田や畑から公道に出る際には、機械に付いた泥のかたまり等を落としてから走行するようお願いいたします。車道や歩道に落ちた泥のかたまりは、自動車等の通行の妨げになるおそれがあり、大変危険です。

やむを得ず道路を汚してしまった場合は、速やかに泥の撤去、清掃をお願いいたします。地域の交通安全と環境美化のためにご理解とご協力をお願いいたします。

◆農業政策課　TEL 048-588-9987

農薬は適切に使用しましょう

農薬を使用する際は、使用方法や注意事項を厳守し、散布区域外に飛散しないよう十分注意してください。できるだけ農薬以外の防除方法を検討し、やむを得ず農薬を散布するときは、事前に周辺住民や施設利用者等に周知するとともに風向きなどに注意して、事故防止に努めてください。

◆農業政策課　TEL 048-588-9987

よもやま話

農村風景の変化



農業委員
西部第2地区
笛木　清

農村の風景は、この数十年で大きく変わってきました。1960年代には、家族みんなでにぎやかに農作業を行う姿が見られましたが、現在は機械化が進み、大規模農家が少人数で作業を進める形が主流となっています。

耕起や代かきは牛から耕運機、そしてトラクターへと移り、田植えは手植えから田植機へ、稲刈りも鎌からバインダー、さらにコンバインへと変わりました。機械の導入によって作業は大幅に省力化され、暮らし方も変化しました。一方で、機械を購入するために農業以外の仕事に就く人も増えていきました。

現在は、機械の老朽化や高額な買替費用、担い手の高齢化や後継者不足が重なり、小規模農家の離農が目立つようになっています。今後は人手不足や耕作放棄地の増加も心配されています。そのため、農地の集積が進む地域だけでなく、旧土地改良地域や小さな圃場が多い地域でも、農業に関わる人や地域の皆さんが協力し、話し合いながら、これまで国民の食を支えてきた農業を守り、より良い形へつなげていくことが大切だと感じています。

農家からの生いたち



農地利用最適化推進委員
南部第2地区
小崎　信明

私の住む地域では、かつて養蚕や米・麦作を中心に、祖父母や父母が家族総出で農業に取り組み生計を立てていました。農繁期には親戚や近所の方々にも手伝っていただき、地域一体となって作業を行ったものです。私自身も農家の長男として育ち、小学生の頃から早朝に起きて桑摘みを手伝った記憶があり、農業の大変さを肌で感じてきました。

高校は農業高校に進学し、水稲や野菜の栽培を学びましたが、卒業後は農業とは離れた仕事に就き、休みの日に手伝う程度の関わりとなっていました。

しかし、平成15年に父が病気になり、翌年亡くなったことを機に、家の農業を受け継ぐ決意を固めました。勤めていた会社を退職後起業し、農業との二刀流で生計を立てる道を選びました。地域の皆さんに支えられながら少しずつ経験を積み、一人でも作業ができるようになりました。

そんな折、地域の将来を見据えて組合を立ち上げる話が持ち上がり、私も参加しました。平成25年には法人化し、機械の大型化や農地拡大も進みました。

近年は組合員の高齢化が進み、現在は息子と家族経営の形へと変わりましたが、これからも地域農業を守り、次世代へつないでいきたいと考えています。

熱中症等対策声かけ期間 7月～9月
ーいのちをうばう、夏のひとり作業ー

農作業中の熱中症による死亡事故の約85%が7月～8月に発生!!

熱中症予防ポイント

・暑さを避ける
・こまめに休憩、水分・塩分補給を
・単独作業を避ける
・熱中症対策アイテム活用（通気性がよい服装、帽子等）

※気象情報の確認による熱中症予防のため「メール配信サービス（メルくま）」への登録をお勧めします。



◆農業委員会事務局　TEL 048-501-5501

大里ふれあい農園利用者募集

場　　所	熊谷市玉作地内
募集区画	2区画
区画面積	30㎡/区画
使用料（年間）	3,080円/区画

※現在、めぬまふれあい農園及びJAくまがやふれあい農園については、募集を行っておりません。

◆大里行政センター地域振興係　TEL0493-39-0311



記事訂正

第８４号（令和８年４月１日発行）におきまして、掲載内容に誤りがございました。

お詫び申し上げますとともに、次のとおり訂正いたします。

【該当箇所】
表紙　米麦複合
(有)中条農産サービス代表取締役氏名
【訂正内容】
【誤】石原　喜一 氏
【正】石原　喜平 氏

編 集 後 記

田畑の風景も麦秋から早苗に変わり、燕が空に飛び交う季節になりました。

くまがや農委だより第８５号を関係各位のご協力をいただきまして、発行することができました。

今回は晴れまち認定品、認定者の紹介を主に編集いたしました。

寄稿に協力していただいた皆様に感謝申し上げます。

今年も暑い日々が予想されますが、熱中症に気を付けて次号（１０月発行予定）も編集したいと考えております。

本号を最後までお読みいただきありがとうございました。

（編集委員　夏目　亮一）

編集委員

委員長	森田	豊
副委員長	伊藤	由行
委員	福田	和行
委員	関口	裕美
委員	権田	久男
委員	関根	一三
委員	中島	正樹
委員	茂木	秀孝
委員	夏目	亮一
委員	田中	輝久

農業委員会

農委だより

熊谷市農業委員会
〒360-0292　埼玉県熊谷市弥藤吾2450番地（妻沼庁舎）
TEL 048-501-5501（直通）／ FAX 048-588-1326

この「くまがや農委だより」は、8,400部作成し、印刷経費は1部当たり19.47円です。